

2024
10



特別展「石岡瑛子Iデザイン」展関連こどものイベント

「みんなでいっしょに！石岡瑛子展」

■開催日時：2024年10月27日(日) 10:30～12:00

■参加者：こども7名、保護者10名

■対象：小学4年生～高校生

■概要

企画展示室で開催されている「石岡瑛子Iデザイン」展をワークシートを使いながら鑑賞し、参加者全員で意見交換をしました。

■1 オリエンテーション

最初に、ミュージアムティーチャーから、街で見かける広告を例にポスターデザインの説明があり、広告には商品の写真、会社やブランドの名前のほかに、キャッチコピーがついていることを学びました。その後、石岡瑛子展を担当した林学芸員から石岡さんの作品《あゝ原点。》のポスターがどのように作られたかお話しがありました。インドの奥地の砂漠で撮影されたという撮影時のお話を聞くと、早く展示室で本物を見てみたい！という気持ちになりました。



ミュージアムティーチャーからの説明

◇参加者の感想（※原文をそのまま紹介）

- ・ 広告のキャッチコピーや絵、写真にもちゃんと意味があるんだと思いました（小5）
- ・ キャッチコピーから読み取ることで、宣伝として見るのではなく芸術として見ることができました（中1）

- ・ いつも美術作品を鑑賞することが多かったのですが、広告を親子で見ながら、広告自体が持つ役割を考えるきっかけになって良かったです（保護者）
- ・ 学芸員の解説がとてもよく、作品の理解が深まりました（保護者）

■2 展覧会の鑑賞

ワークシートを持って、みんなで展示室へ！石岡さんの代表作でもある資生堂やPARCOのポスターのほか、雑誌『野生時代』、インスタントコーヒー『マキシム』のパッケージなど、たくさんの作品が展示されていました。「写真だけでなく絵（イラスト）を使ったポスターもあるね」「おもしろい写真だけど、何の広告なんだろう」参加者は保護者とお話ししながら鑑賞しました。



鑑賞する参加者の様子

■3 みんなで意見交換

鑑賞後、みんなで再度集合し、ワークシートをもとに意見交換を行いました。展示作品のひとつ、ケニアの奥地に住む母子の写真が使用されたPARCOの広告《わが心のスーパースター》を見た参加者は、「お母さんから見たらこどもがスーパースターで、こどもから見たらお母さんがスーパースターという意味だと思った！」と、周りの大人もびっくりするような回答をしてくれました。また「いろいろな赤色を使ったポスターがあった」と教えてくれた参加者や、「《西洋は東洋を着こなせるか》というポスターの作品がよかった」と作品のスケッチを見せてくれた参加者もいました。



意見交換の様子

■4 学芸員からのお話、ふりかえり

最後に、林学芸員から石岡瑛子展について説明がありました。「石岡さんが手がけたPARCOの広告は、服や靴などの商品を宣伝するのではなく、PARCOとはどういう企業で、何を考えているのかというメッセージやイメージを伝えるものでした」「石岡さんは自分の考えや主張したいことを広告の中に込めて表現しています」「今回の展覧会は、そのような石岡さんの仕事を！（アイ、英語で"自分"のこと）デザインというタイトルのもとに紹介しています」

今回、参加者の意見交換も活発に行われ、展覧会鑑賞前後に林学芸員からの解説があり、参加した大人もこどもも学びが多い活動になりました。



学芸員のレクチャー

□担当学芸員からのコメント

今回は石岡瑛子さんの代表的な仕事の一つであるPARCOのキャンペーン広告を中心に、ポスターをじっくりと眺めながら、写真やキャッチコピーからどんなことが読みとれるかを参加者とともに考えました。「広告」を鑑賞するという、ふだんあまり馴染みのない経験にも関わらず、参加者からは次々と意見や感想が飛び出しました。石岡さんが細部までこだわって作り上げた鮮烈なビジュアルや力強いコピーの一文が、参加者の想像力を刺激してくれたようです。（林学芸員）